保全活動をやってみよう

思い込みや間違った知識で保全活動を始めると、
生きものに悪い影響をおよぼしてしまうことがあります。
市役所（みどり公園課）や専門家に相談しながら進めましょう。
上尾丸山公園では、ボランティア「上尾水辺守」を中心に、生きものの生息環境を再生する「ネイチャーポジティブ」の取組を進めています。いっしょにやってみませんか？

自然再生イベント『みんなで水辺守』

湿地整備編

やぶになってしまった場所で低木や草を刈り、日当たりのいい湿地を再生します。生息環境がひろがると、トンボやカエルが自然に増えていきます。

アメリカザリガニ駆除編

水草や水生昆虫の大敵・アメリカザリガニを駆除して、生きものいっぱいの大池を再生します。
在来種の魚やエビも観察できます。

放流に頼らない生物多様性保全の時代へ

　ゲンジボタルとヘイケボタルは、幻想的な光を放つことから各地で増殖活動が行われています。過去には他地域からホタルやカワニナを持ち込んだり、生息できない場所に観賞のために放虫して死なせてしまう例もありましたが、現在では生物多様性の保全に配慮した取り組み方が求められるようになりました。

　埼玉県内には、発光しないホタルも含めて 10,000 種以上の昆虫が生息しています。光ってきれいだという理由で 1 種類の昆虫だけを増やそうとすると、生きもの同士のつながりやバランスを壊してしまいます。地域に生息しているさまざまな生きものを環境ごと保全する中で、ホタルが自然に増えていく取り組み方をしていくことが大切です。

上尾市みどり公園課

どうして放流しちゃダメなの？

鑑賞用のホタル放流や、釣り魚の放流のように、昔は生きものを増やす目的で放流が行われていました。今では、放流するとかえって生物多様性を壊してしまうことがわかってきました。
自然を大事にする取組は、時代に合ったものへとアップデートされています。

野生の動植物が生息している場所に、別の場所で捕ってきた生きものや飼っていた生きもの・植物を放したりまいたりすると、もともといる在来種に悪い影響が出てしまいます。

上尾丸山公園で発見された外来種
（改良品種、外来集団を含む）

ホテイアオイ

タイリクバラタナゴ

ヒメダカ

ニシキゴイや外来種のコイ

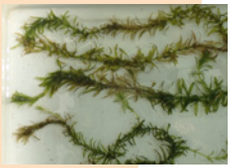
花菖蒲田付近の水路

＊カワニナとホタルはもともといる生きものですが、別の地域から外来集団が持ち込まれています。

カワニナ＊

ホタル

オオフサモ
（特定外来生物）



オオカナダモ

これらの生物を見つけたらすべて回収しています

放流がよくない理由は次のページへ！

放流はダメ！

自然の中に生きものを放してはいけない理由

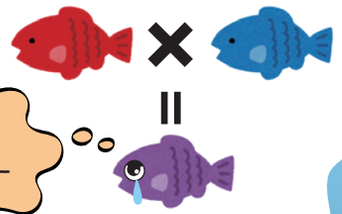
外来種や品種改良された生きものを放流すると、もともといた在来種に悪い影響があります。
また、在来種であっても、よそから捕ってきたものや、飼っていたものを放してはいけません。

国内外来種と呼ばれているよ

天敵がいないから増えやすーい！

在来種の居場所を奪ってしまう

競争関係になって在来種よりも優勢になり、在来種を減らしてしまいます。



在来種じゃなくなっちゃうよー

在来種の特徴を無くしてしまう

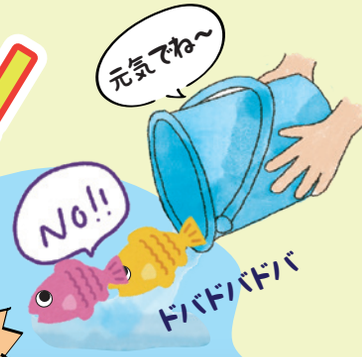
雑種をつくって、在来種を絶滅させてしまいます。

病原菌や寄生虫を持ち込んでしまう

生きものといっしょに病原菌などが入ってきます。
対策は「放流しないこと」しかありません。
飼育していた水や砂もゼッタイだめ！

放流はムダ！

放流しても生きものが増えない理由



やめてー！
ここじゃ生きられない！

生息環境がないから死んでしまう

生きものが減った原因は、生息地の質の悪化や場所がせまくなったこと、外来種が増えたことなど、さまざまです。原因を解決しないで放流しても、ムダに死なせてしまうだけです。

定員オーバーで死んでしまう

野外にいる生きものの数は、生息地の広さ、食べものの量、天敵との関係などから決まるものです。
それ以上にたくさんの数を詰め込んでも生きていくことはできず、すぐに元の数に戻ります。

それって意味なくない？

もともとある自然を尊重して、生きものが暮らしやすい環境を整えると生きものは自分で増えていくよ。

※希少種の絶滅を防ぐ目的で、飼育・栽培して増やした個体を野外に戻す活動があります。
こうした取組は行政と専門家などが十分に検討しながら実施しています。